

16. 野外自然発生疾病に対するピタネットの効果並びに予防効果試験

殿内正芳 清水明良 井崎金二 名倉清一

鶏ひなの育成を9月上旬よりノ区100羽づつ5区設定して飼育を開始したこの内のノ区に10月上旬にコリザ様の疾病が自然発生したので、これに対してピタネットを投与し治療並びに予防試験をする機会を得た。

試験材料並びに方法

① 験体名 ピタネット

② 供試鶏 ニューハンプシャーメ白色、コーニツシュの中雛の雌雄合計500羽を各区100羽として5区に分けてケージにて飼育した。

③ 試験期間 昭和38年10月16日より31日まで

④ 試験方法 育成中の中雛500羽の内のノ羽がコリザ様の症状を呈したので、伝染をおそれこのノ羽を即日淘汰した。しかるに翌日同区に同様の症状を示す病鶏が6羽発生したので、この6羽を隔離してピタネットを0.2%の割合に飲水に溶かして投与すると共に、残りの493羽に対しては0.1%の割合に飲水に溶かして6日間投与し予防試験を行った。

表1 ピタネット投与期間

区 分	添 加 量	添 加 期 間
予防区(493羽)	0.1% 飲水に添加	10月16日～21日までの6日間
治療区(6羽)	0.2% 飲水に添加	10月16日～29日までの14日間

試験結果

投薬前の疾病の発生状況及び症状並びに疾病の治療、予防の経過は次の通りである。発病鶏の症状

10月14日No.520のひなが顔面腫脹、流涙を主徴とするコリザ様の疾病が発生して同日淘汰した。翌日同区の6羽に同様の症状を呈する疾病が発生したので隔離してピタネット0.2%飲水に添加して投与した。

病鶏の症状の推移は表2の通りである。

表2 病鶏の治療状況

病 鶏	月 日 (10月)												
	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27
No. 508 ♀	+	+	+	±	±	±	-	-	-	-	-	-	-
No. 509 ♀	+	+	+	±	±	±	-	-	-	-	-	-	-
No. 512 ♀	+	+	+	±	±	±	+	-	-	-	-	-	-

No. 548 ♀	+	+	+	±	±	±	+	-	-	-	-	-	-
No. 550 ♀	+	+	+	±	±	±	-	-	-	-	-	-	-
No. 577 ♀	+	+	+	±	±	±	±	±	±	±	±	±	-
備 考	± 顔面腫脹し明らかに流涙 ± やや顔面腫脹し涙ぐむ - 症状なし												

10月15日、6羽にみられた症状は顔面が稍々腫脹し、流涙又は涙ぐむ状態であった。6羽の内4羽は投薬後4日で流涙は止み、顔面の腫脹も軽減し涙ぐむ状態であったが投与後7日で4羽は全く症状がなくなった。

No.548とNo.550は9日に症状が軽減し13日目で症状が消失した。

疾病の発生時(6週令)から出荷時(10週令)までの病鶏の体重と病鶏発生区の残りの93羽の平均体重は表3の通りである。

表3 病鶏の体重並びに試験鶏の平均体重

病 鶏 別	体 重				
	6	7	8	9	10
No 508 ♀	515	710	925	1115	1250
No 509 ♀	630	840	1095	1275	1350
No 512 ♀	545	730	970	1170	1310
No 548 ♀	595	735	950	1140	1275
No 550 ♀	590	710	875	1050	1175
No 577 ♂	760	890	1185	1475	1610
発生区の♀	623	804	1000	1166	1352 ± 150
平均体重 ♂	720	937	1167	1370	1639 ± 197

10週令における同区の平均体重の雌の体重内に発病鶏5羽の内4羽は入っており、1羽は平均体重より悪かった。雄の発病鶏1羽も平均体重内にあり、発病鶏も健康鶏も出荷時には体重に変わりがなかった。発生予防として0.1%の割合に飲水に添加した493羽にはその後発病しなかった。

要 約

自然に発生した顔面腫脹、流涙を主徴とする、コリーザ様の疾病に対して病鶏にはピタネット0.2%、残りの鶏に対しては0.1%の割合で飲水に添加した。予防の目的で0.1%の割合で添加して、10週令まで全く発病をみなかったことから予防の目的を一応達したことと思う。病鶏に対するピタネットの効果は症状が6羽中4羽は7日目、残りの2羽は13日目に全く消失したこと、10週令における体重も正常な発育をとげた。

以上の結果からして、コリーザ様の疾病に対して効果があったと思われる。